

平成27年度 長野市産業振興審議会 第1回 観光振興専門分科会

日時 平成27年7月15日(水) 午後3時から午後5時30分まで
場所 長野市役所第一庁舎8階 第一委員会室
出席者 委員(13人中12人出席、1人代理出席)
事務局8人

1 議長選出

長野市産業振興審議会条例第6条の規定により、以下のとおり選出

議長：笠原 甲一 委員(長野電鉄(株) 代表取締役社長)

副議長：山崎 行夫 委員(長野市ホテル旅館組合 理事長)

2 議事(要旨)

- (1) 平成26年度実績報告及び平成27年度施策について
(資料1に基づき事務局説明)

【補足説明・意見など】

■平成26年度に実施した、観光情報発信の新しい取り組み

- ・平成26年9月に、東京ドームで行われたプロ野球の試合の開催に合わせ、観客に対して約30,000部パンフレットの配布、長野の特産品等が当たる抽選会の開催、入口前の広場における長野市のゆるキャラ数体によるパフォーマンス、ドーム内のオーロラビジョンへの加藤市長の出演による長野市のPR映像(約30秒)の放映を計6回実施。
- ・平成26年10月から平成27年3月にかけての6箇月間、アニメ「サザエさん」のオープニングに長野県の観光地を紹介する映像が放映され、長野市関係では平成26年10月から12月は戸隠と松代、平成27年1月から3月は善光寺御開帳を紹介する映像を放映。

■善光寺御開帳に関して

- ・法改正等により、観光バスに関しては大変厳しい状況であった。ツアーバスによる参拝客は前回比のおよそ70%。
- ・列車利用のお客様は、北陸新幹線の金沢延伸の効果、列車本数の増及び車両の増により相当増えた。また、東京からの旅行会社のツアーで、新幹線の臨時列車を3本運行した。

■今年度の観光施策について

- ・御開帳後から平成28年度にかけてのキャンペーンテーマ「祈りの朝・宵の宴」は、観光客の宿泊をしていただくための施策である。「祈りの朝」に関しては、善光寺だけでなく戸隠神社も含む。
- ・今年度は、善光寺及び戸隠における「宿坊」、NHK大河ドラマの「真田丸」、

そして「ボランティアガイド」の3つを、国内向けのキーワードとして捉え、長野市への宿泊誘客に努める。

- ・インバウンドについては、アジア・欧米含めてネームバリューがあるのが山ノ内町の地獄谷野猿公苑「スノーモンキー」である。入口に出来た「猿座（えんぞ）カフェ」を活用しながら、長野市への誘客を図りたいと考えている。
- ・今年のコンベンション誘致については、目標としている11万人を達成できる見込みである。改めて、スポーツ大会、合宿の誘致に注力したい。
- ・今まであまり取り組んでこなかったが、教育旅行・修学旅行、特に関西地域からの誘致に力を入れたい。

- (2) 次期長野市観光振興計画の策定について
(資料2-1、2-2に基づき事務局説明)

【質問等なし】

- (3) 善光寺御開帳に伴う観光施策について（報告）
(資料3に基づき事務局説明)

【補足説明・意見など】

■観光情報センターについて

- ・8～9ページで説明のあった、長野駅の観光情報センターのデジタルサイネージについて、JR長野駅との協定により、有料広告の類は一切行わない。基本的に観光情報のみの発信であり、行政の情報の放映も行っていない。長野市及び北信濃地域の観光情報の発信を行っている。また、コンベンションで長野市にお越しになったお客様向けには「歓迎 ようこそ長野市へ」という歓迎のメッセージと、会議・大会の名称、会場、時間等の情報を放映している。

■善光寺御開帳に関して

- ・13ページの善光寺本堂・回向柱ライトアップについて、午後9時までとなっているが、善光寺様の御配意により、参拝のお客様の状況に応じて、ライトアップや本堂の外陣の参拝を午後10時位まで延長するなど、臨機応変な対応をしていただいた。
- ・善光寺御開帳にあたって、長野市、ながの観光コンベンションビューロー、善光寺御開帳奉賛会の連携により、広報活動が効果的に行われたと思っている。平成21年の御開帳に比べると、報道発表を早めて行ったが、旅行会社やエージェントへのセールスや旅行商品の作成のスケジュールを考慮したという事情がある。
- ・今回は天候に非常に恵まれた。4月上旬～中旬は天候不順な日があったが、4月18日（土）から5月の末まで、ほぼ晴れの日が続いた。

- ・御開帳の参拝客のお客様で、北陸新幹線が開通したので試しに乗ってきたという声が聞かれた。御開帳や新幹線の延伸をきっかけに訪れたお客様に、長野の印象を深く持っていただき、今回は日帰りだったお客様に対して、次は宿泊へ導いたり、リピーターとなっていていただくなど、次につなげることが大切であると感じる。
- ・銀座NAGANOで、御開帳をPRするための「ミニ回向柱」を展示していたが、東京でも御開帳の認知度が高いことが感じられた。長野市においても、銀座NAGANOをもっと活用し、長野市のPRに努めていただきたい。
- ・今回の御開帳では、権堂（往生院）や、かるかや山（西光寺）など、いろいろなところに回向柱が建っていた。回向柱を探して歩く「回向柱めぐり」は観光客の周遊、滞在時間の延長に役立った。
- ・観光客から「街がきれい」という声が聞かれた。
- ・七福神めぐりと回向柱めぐりは、表参道ガイド協会のコース設定をしており、参加者も多かった。
- ・市内の周遊、滞在時間の延長、宿泊につなげる、といった話があったが、御開帳の効果として、宿泊の状況はどうだったのか？
⇒市内の主なホテル10施設について、4月の稼働率が約87%、5月が約91%という結果を聞いている。あるホテルでは、長野オリンピック以来の稼働率であったとの話もあった。御開帳の効果は前回よりも上がったと言っている。中・小規模の宿泊施設については、統計を取っていない所もあるのでお示しできる数字は持っていないが、概ね良好であったのではないかと推察している。経済効果の分析では、善光寺のライトアップの効果もあったという分析結果も出ている。
- ・今回の善光寺御開帳が成功であったという話が多いが、せっかく観光客が長野に宿泊してもらっても、夜にお店が開いていなかったり、周辺で楽しめるモノ・コトが無い状況というのは、反省点として考えられる。訪れた観光客が満足してお帰りになったのか、何を求めて訪れていただいているのかということが、リピーターとして再度訪れていただくために大事な点であると思う。次回の御開帳に向けて、市民と一体になって考えて行ければ良いと考えている。
- ・足の不自由な方や高齢者が参拝に来られた場合の対策はあったのか？
⇒長野駅の観光情報センター、大縁日の本部などで車イスの貸し出しを行っており、前回と比べて利用者は多かった。但し、長野駅から善光寺に向かう表参道は登り坂であるので、車イスを押して歩くことは困難である。自分で車イスを用意している方は、目的地に一番近い駐車場に車を停めて、そこから車イスを押してゆく、という行動になると思われる。

- ・善光寺の周辺の駐車場について、ある程度のスペースは、障害者・高齢者向けの専用駐車場として位置付けた方が良いのではないかと思います。

■善光寺御開帳に伴う渋滞対策について

- ・17ページの渋滞対策について、正式な発表は8月に出るということであるが、対策の効果について事務局で情報をお持ちであれば、可能な範囲で教えて欲しい。

⇒善光寺及び市街地周辺交通渋滞対策部会の事務局である、長野市交通政策課から資料を提供してもらったので、概要を説明する。

最大渋滞長は、前回は約3.6km、今回は約2.4km、約1.2kmの短縮。

平均渋滞長は、前回は約1.8km、今回は約800m、約1kmの短縮。

最大所要時間は、前回は約1時間56分、今回は約1時間54分で、約2分弱の短縮。

平均最大所要時間は、前回は約1時間22分弱、今回は約55分で、約27分弱の短縮。

渋滞対策の結果は全般的に前回と比べて良い結果が出ている。ツアーバスの減少や、自家用車の民間駐車場の利用促進など、複合的要因によるものと思われる。

パーク&バスライドの臨時駐車場利用実績は、前回は25,420台、今回は19,072台で、6,348台の減少。

パーク&ライドのシャトルバス利用者数実績は、前回は69,579人、今回は41,182人で、28,398人の減少。

篠ノ井駅と今井駅でのパーク&レールライドの駐車場平均利用台数は、前回は31台、今回は142台で、111台の増。

- ・渋滞情報のネットでの発信により、善光寺周辺が混雑していることが分かると、善光寺の手前の民間の駐車場に停めるという傾向が見られた。
- ・高速道路の長野IC、須坂・長野東IC、更埴ICの自家用車の出入り台数は、前回に比較して5%程度増えている。前回の御開帳では、高速道路の料金がETC割引で1,000円という要因があり、自家用車の出入りは多かったが、今回はそれよりも増えている。それにもかかわらず、渋滞は前回に比べて緩和されているということは、渋滞対策が功を奏したと言える。
- ・5%増えているということに驚いた。前は平日でも善光寺周辺は渋滞していたが、今回は、土日やゴールデンウィークは混んでいたが、平日はスムーズな状況であった。

■外国人観光客の対応について

- ・14ページで、表参道ガイド協会の活動が紹介されているが、外国語の対応はどのような状況であるか？

⇒ガイドに登録している方の中で、現時点では、外国語の対応が出来る方はいない。

長野駅の観光情報センターには、外国語対応が出来る人を配置している。善光寺境内を案内できる外国語対応のガイド団体のスケジュールが空いていれば、街歩きも含めて案内は出来るが、事前に確認が必要である。表参道ガイド協会が活動を開始してから2年目であり、街歩きのガイドを外国語で対応するというレベルまでには至っていない。

- ・街を見ていると、外国人観光客が増えていると感じる。ツアーや団体ではなく、個人で来ている方がほとんどである。
- ・外国人観光客の対応について、市としては課題として認識し、対応策は考えているのか？

⇒インバウンドの市場がこれだけ大きくなってきている中で、長野駅が「ハブ駅」としての機能を持ち、長野駅から白馬、長野駅からスノーモンキー、という流れが確立されている。そのような外国人観光客を、長野に滞在してもらい、長野の街に周遊してもらうか、ということが課題である。ながの観光コンベンションビューローと協力しながら対策をして行く。

■その他

- ・御開帳期間中にアーティストのコンサートが2回ほどあったと思うが、長野駅周辺の人出が多かったことと、宿泊が取れなかったということを知った。

⇒エムウェーブで開催された。これまで長野では、大きな規模のコンサートはあまり行われていなかったが、北陸新幹線が金沢まで延伸し、北陸方面の人にとっては、長野でのコンサートは便利だ、ということがある。夏にも大きなコンサートが開かれるが、これが成功すると後につなげることが期待できる。

北陸新幹線の沿線都市の中で、長野市はコンベンション施設が充実している。その効果はこれから上がってゆくことが見込まれる。

- (4) NHK大河ドラマ「真田丸」放映に向けた誘客対策について
(資料4に基づき事務局説明)

【質問等なし】

- (5) インバウンド対策に係るフリーWi-Fiの整備について
(資料5に基づき事務局説明)

【質問等なし】

- (6) その他観光施策について (フリートーク・質疑応答)
■北陸新幹線(長野経由)の延伸の効果について

- ・新幹線の利用者数は、前回の御開帳と比較して173%となった。但し、前回は高速道路のETC割引の効果により高速道路利用の自家用車が多かったという要因があるので、単純な比較は出来ない。
- ・長野駅降車人員については、新幹線の改札、在来線の改札それぞれで20%～25%の増という数字があり、新幹線だけでなく、在来線も多い。
- ・篠ノ井線の利用も多く、20%程度の増であった。篠ノ井駅や今井駅のパーク&レールライドの効果があったと思われる。

■インバウンドについて

- ・インバウンドというと外国からのお客さんとしての認識であると思うが、インバウンドが増えると国内の観光客が増える。良い例が山ノ内町のスノーモンキーで、外国人のお客さんが多いと言われているが、日本人のお客さんも右肩上がりに増えているとのことである。相乗効果を考えて、インバウンドと国内向けの両方の対策を考えてゆくことが求められる。

■情報発信について

- ・パンフレットやガイドブックについて、観光客目線によって作り込むことが求められる。
- ・街に住む人達が自分の街を誇れるか、プライドを持てるかという点が重要である。訪れていただく観光客の皆様へ、パンフレット・ガイドブックで街の良さ、知られていない逸品等を紹介する際には、そのように作られてあると興味を引く。

■NHK大河ドラマ「真田丸」放映に向けた誘客対策について

- ・上田市を始めとする真田家ゆかりの地との連携の話があり、上田市と松代を巡るような企画がされると思うが、具体的な施策についてお聞きしたい。
⇒上田市とお話をする中で、上田市に設けられる「ドラマ館」と真田宝物館の共通チケットの話が出ている。また、交通手段・二次交通となるしなの鉄道やJRに、お客様が訪れやすくしていただくよう協力をお願いしてゆく。旅行エージェントを通じて売るといった形態もあるので、首都圏での販売も出来る。

■観光周遊バスについて

- ・金沢では観光周遊バスがあるが、長野では運行は無いのか？
⇒金沢の街中は観光のコンテンツがたくさんある。また、輪島など他市の観光地もあり、観光バスが充実している。
昔は長野駅発着の定期観光バスがあったが、乗車率が芳しくなく運行が無くなった。
- ・「真田丸」の関連で、上田・長野市間のシャトルバスの運行を検討している。
- ・前回の御開帳では、長野・小布施間のシャトルバスを運行し、小布施町に行く観光客が非常に多かったが、今回はそれほどでもなかった。

以上